

北海道経済記者クラブ御中

2026年5月21日

NTT 東日本札幌病院

NTT 東日本札幌病院、呼吸器外科でロボット手術体制を強化
～国際 B 級ライセンス取得に加え、低侵襲手術と人材育成を推進～

NTT 東日本札幌病院(札幌市中央区 301 床 吉岡院長)はこのたび、道免呼吸器外科部長が日本ロボット外科学会認定「国際 B 級ライセンス(呼吸器外科)」を取得したことを受け、呼吸器外科領域におけるロボット支援手術の診療体制を強化した。

同ライセンスは、ロボット支援手術に関する高度な技術に加え、安全管理体制や教育体制を含めた総合的な基準を満たした医師に付与される資格で、道内でも取得者は限られている。今回の取得は、肺がん手術を中心とした臨床実績と、安全な手術体制の整備が評価されたもの。

同院呼吸器外科では、年間 110 例前後の手術を実施しており、肺がん手術は年間 50～70 例で推移。近年は低侵襲手術の比重を高め、ロボット支援手術と単孔式胸腔鏡手術(VATS)を診療の柱としている。ロボット支援手術は年間 30～40 例程度を安定的に実施しており、症例の集積とともに手術の質と安全性の向上に取り組んできた。

単孔式胸腔鏡手術についても積極的に導入し、創部の最小化による患者負担の軽減と手術精度の両立を図っている。これらの低侵襲手技はすでに日常診療に定着しており、安定した手術成績を維持している。

また同部長は、消化器外科領域においても同学会の認定ライセンスを有しており、複数領域にまたがるロボット支援手術の経験を有する。こうした知見を活かし、患者の状態に応じた術式選択を行っている。

人材育成の面でも、若手医師が段階的に低侵襲手術技術を習得できる教育体制の整備を進めており、院外からの研修受け入れや学会発表、論文発表などを通じた情報発信にも取り組んでいる。さらに外部専門医の招聘による講演や手術見学の機会を設けるなど、院内外を含めた技術共有も展開している。

今後も同院では、ロボット支援手術および単孔式手術を軸とした低侵襲手術の質向上に取り組むとともに、人材育成と地域医療への貢献を両立した診療体制の充実を図る方針。

【本件に関するお問い合わせ先】

NTT 東日本札幌病院

経営企画担当 西村

TEL:011-623-7720